

令和4年度 たつの市まち未来創生戦略推進委員会

日 時：令和5年2月24日（金）

午前10時～正午

場 所：たつの市役所災害対策本部(兼)大会議室

出席者：委員17名、事務局

- 1 開 会
- 2 報告事項
 - (1) たつの市まち未来創生戦略推進委員会委員意見に係る取組状況について
(第1期：平成27年度～令和3年度)
 - (2) たつの市の現状について
 - (3) 「たつの市まち未来創生戦略」基本目標・施策の検証及び評価について
 - (4) 令和4年度の主な取組について
 - (5) 国の認定を受け進める本市の創生戦略事業について
 - (6) 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略について
- 3 協議事項
 - (1) 「たつの市まち未来創生戦略（第2期）」の改訂について
- 4 意見交換
- 5 閉会

－委員長挨拶－

本日は、ご多用の中、お集りいただきありがとうございます。各分野からご参加いただいている皆様の貴重な意見をいただければ幸いです。皆様で考えたことを共有し、創造的にたつのをどう発展していいかをモニタリングする機会です。本日は、よろしく願いいたします。

－会議要旨－

事務局より、取組状況等の説明を行い、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり

報告事項

- (1) たつの市まち未来創生戦略推進委員会委員意見に係る取組状況について
- (2) 国の経済・社会状況
- (3) たつの市の現状について
- (4) 「たつの市まち未来創生戦略」基本目標・施策の検証及び評価について
- (5) 主な取組について
- (6) 国の認定を受け進めた本市の創生戦略事業について

協議事項

- (1) 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略について

委員

1点目としてまちづくりに関して特に企業誘致だが、全国チェーン店は太子町に多く、若い方や女性はそちらを選んで外出されている。たつの市も危機感を持っているが、龍野 IC（インターチェンジ）南の大型店舗誘致が地域経済の活性化の起爆剤となるよう期待を寄せている。先進地視察を議会で行っているが、行政も予算の範囲内で視察をしてみると良い。まちづくりが進んでいかないことが問題。
2点目としてデマンドタクシーの運行区域には地域差がある。区域を越えて運行

	<p>できないところは、行きたいところに行けるようになる福祉バスの運行にすることはできないか。</p> <p>3点目として年金月15万円の支給では、市営住宅に入居するなどしないと、固定資産税等住宅維持費で生活できない方がいる。コンパクトシティの考え方のもと、過疎の新宮地域の中心地で商業や医療・福祉、高齢者住宅が入った7~10階建の複合施設の開設がスマートシティ構想案として考えられる。今後は、龍野・揖保川・御津へ展開することなども可能である。今後を見据えた活きたお金を使う考えもある。</p>
委員	<p>議会は常任委員会や一般質問の機会もあり、市民の皆様からの意見を各担当課へぶつける場がある。大型店舗誘致については、以前から議会で一般質問しており、市も協議を行い、少しずつ実現されており、そういった場できちんと発言していく。また、一例をあげると、下水道の赤字約30億円以上が一般財源から繰り出されている。議会としては、皮革排水処理対策特別委員会で国への陳情を行い、特別交付税措置や赤字部分の負担軽減を求めている状況である。</p> <p>子育て世代として発言すると、大きな公園が欲しい。インクルーシブ化した遺跡北公園、黍田公園が実現している。20代の転出超過は、働く場所がないと、若者は定住しない。企業は工業団地がないと来たくても来れないという問題がある。大きな場所があっても、市街化調整区域や農用地区域で1~2年手続きにかかって企業も来たい時に来られないことが原因。工業団地の整備が必要ではないか。金融機関の方に、企業から相談があるなら話を聞きたい。企業が進出したいと思ったタイミングを逸しているのではないか。</p> <p>また、たつの市は自然が豊かなので、グランピング・キャンプなど、一般の方も利用できる自然を利用した施設を運営できる業者の誘致をしてはどうか。また、ビジネスホテルがなく、姫路で宿泊している方が多いため、これらの誘致を含めたまちづくりが必要である。</p> <p>観光に関しては、インバウンドが復活してくる中で、観光協会ホームページリニューアルは素晴らしいことだが、広域化を検討するには、瀬戸内DMOや県との連携も情報共有をした上で少しでもたつの市が良くなるように、一生懸命勉強しながら意見を言っていきたい。</p>
委員	<p>観光協会のホームページのリニューアルは、今まで全く違う形で好評を得ているところである。川西地区の飲食店は増加傾向にある。予約が取れない店もある。飲食をきっかけに、良い循環ができています。体験型の観光バスツアーが組まれるなど、観光スタイルが変化している。旧カネキ醤油跡地の「みの劇場」で、レストランやお酒の醸造ができないか模索している。たつのだけを回って楽しめるような観光プランも考えていかななくてはならない。</p>
委員	<p>ラジオパーソナリティと一緒に西播磨地域を回っている。今年で10年を迎える。たつのは、古き良き建物が残っているのがすごい。お店も魅力がいっぱいあり、1日では回り切れない非常に楽しめる場所であり、個人的にも何度もリピートしている。特に、2015年から2020年の人口減少の下げ止まり効果と重なって、目に見えてまちの充実が感じられる。誰かに1日1万歩ぐらい歩くのならちよっど良い場所ということをお願いして仕方がないような場所です。駐車場も利用しやすくなり段々と便利になった。あとは、揖保川トマトや御津の人参・大根など、もっと手に入りやすくなれば良い。道の駅のようなものができればと思っている。</p>

	<p>宿泊について、安心して泊まれるホテルができるとより良い。</p>
委員	<p>人口問題においては、アクセスの良さ・一軒家が構えやすい・公園が多いということがポイントになるかと思う。たつの市は自然が豊かで子育て支援をはじめ、様々な支援に取り組まれている素晴らしいまちである。基本目標2の「新しい働き方に対応できる環境づくり」や「転出されている方がたつの市に戻ってくる」と対しての支援の厚さが転出の抑制に繋がるのではないかと考える。</p> <p>ここで大事なのが、素晴らしい支援体制を必要な人にどのように届けるのかといった PR の方法である。住宅ローンの金利が上昇局面にあって、金利負担が増加する中で、借り入れの希望金額が減額になっている可能性もあるということが出てくると思う。この中で、中古物件の購入とか、リフォーム希望者がどれだけ増加するのかわからないが、子育てに適したまちにおいて、空き家対策をはじめ、定住者の増加等の取組を行い、更なる活性化が非常に大事だと思う。</p>
委員	<p>お客様からの相談では相続、承継の話が増えている。相続・承継を切り口にすることによって、相続のよろず相談からいろんなテーマに絡んでくる。空き家対策に繋がったり、子どもが相続対策をきっかけに戻ってくると、その時に住みやすいまちであったり、田畑の有効活用といった何か気軽に相談しやすい窓口みたいな幅広いワンストップできるものがあればよいと考えている。</p>
委員長	<p>働く場所の話が出て来ていないが、現状はどうでしょうか。</p>
委員	<p>求人年齢層はかなり高く、お客さんの半分以上が55歳以上という状況。企業誘致された企業は開業後の人の補充にどこも苦労されている。</p> <p>現実問題として、神戸を通り越して大阪へ通勤している方が多い。姫新線と山陽本線の乗り換えの利便性が悪い。車でJR網干駅まで行き、新快速に乗って通勤されている。たつの魅力を発信し、その方のパークアンドライドを支援し、そういった方を取り込むのも、一つの手かと思えます。エリア内だけでお仕事まで完結させようとする、ちょっと厳しい部分があるので、そういった施策もあれば良い。</p> <p>また、地場産業のてこ入れも必要である。国道2号は姫路西サービスエリアから西にはサービスエリアがない。バイパスを降りてすぐのところ、皮革製品が売っている、その地域の産業の物産がそこに行けば買えるといった集客施設があれば良いと思う。求人倍率が1.3倍と回復基調であるので、そのあたりを視野に入れた企業誘致や今ある産業の育成を一緒になって考えていければと思う。</p>
委員	<p>婚姻届の受理件数が目標値としてはあるが、アクションプランに支援の部分がないのが気になったところである。結婚は二極分化しているので、市と連携して具体的な話ができれば良いと思う。大型商業施設の誘致のことも、たつの市が話題に上がって、発信できれば、そこに目掛けて来てもらえて、たつの他のところにも来てもらえるように流れができれば良い。</p> <p>たつのふるさと親善大使のインディアンズ田淵氏を活用した有効な発信と周知ができれば良いと思う。</p>
委員	<p>1点目は、コロナによって世の中が大きく変化した。元に戻る変化と元に戻らない変化がある。マスクや仕切り板は、元に戻って欲しい。でも、ITの進展、これは10年分が一気に進んだと言われており、もう元には戻れない。元に戻れないものは先取りしてやっていく。デジタル田園都市国家構想の中に「転職なき移住の推進」があった。転職無しで自分の家で仕事ができる。リモートワークの進展</p>

	<p>とともに、出身地に戻ってそこで仕事ができる、その形が実現していくと思う。ITによるコミュニケーションの促進ともう一つ大事なものは、人とのコミュニケーションの促進である。たつのであればそれはできるのではないかと考える。全く両極端なコミュニケーションの推進が必要なのではないか。</p> <p>2点目は、企業の相互の横連携の促進ができれば良いと思っている。たつの市はIHIと新日鉄のお膝元として、鉄鋼や金属加工とか溶接といった得意技を持った会社が立地されており、その技術を生かしてなんとかやろうという努力をされているのが、第1のグループ。醤油素麺皮革に代表される伝統産業とそれに関連した裾野の広い産業が第2のグループ。第3のグループが大企業。西播磨の拠点としての工場が相当数ある。県立大学がコーディネーターというような形で、これらの3種類の産業・企業群の連携を促進されていければ良いと思う。</p>
委員	<p>中小・零細企業の事業所に向けてデジタル化の人材教育やSDGsのセミナー等を開催し、これからの事業所の未来のために行っているが、コロナ禍の3年間で各事業者は困っておられる。商工会の退会や新規加入はあるが、会員数は維持しており、なんとかやっけていこうということで、セミナーを行ったりしている現状である。</p>
委員長	<p>DX化というものは、避けられない。立ち止まってはいけない。</p>
委員	<p>先ほどの人口増対策についてどうするかを述べる。市街化区域が龍野に集中している。御津や揖保川にも広げていただきたい。公共交通について、御津から網干へ行けない。神姫バスの本数も減っている。御津は経済圏が姫路である。竜野駅が橋上化するのであれば、そこへの便数を増やしてほしい。産婦人科がなく網干にある病院が最寄で、佐用や相生から来られている。たつのにできなければ、新しくできた、はりま姫路医療センターに行けるように考えてもらいたい。</p> <p>小中一貫校の整備に関しては、跡地利用が問題である。室津小学校の立派な学校が体育館も残ったままで、自然学校などで利用も考えれば但馬まで行かずともできるのではないか。また、跡地を宅地化することで住宅を作りやすい環境を作れば良いのではないか。揖保川、元川、中川の東和賀の網干地域は市街化区域になっている。新宮揖保川も市街化区域を広げると人が増えると思う。</p>
委員	<p>交通は地域格差があるので、いろんな意見を参考にしながら進めていければ良いのではないかと考える。まち未来創生戦略をはじめ、市が色々な取り組みをされていて感心する。龍野地区は良いところなので、観光と生活が共生するまちづくりが進んでおり、それに沿った形で地域が一つになって進めていければ良いと考える。</p>
委員	<p>公共交通でたつの市がどこで行き詰まっているかを報告する。公共交通は本当に困っている人の足になるためにやっているのだが、最終的に困っているのが、バス会社や、タクシー会社です。また、行政がこの交通事業者の営業を妨げてはいけないという法律がある。地域を越える運行の許可をタクシー事業者やバス会社からもらわなければならない。地域を越えていくということは、地元バス会社やタクシー会社として仕事ができなくなるということで反対に回っておられる。そこで今ストップしているということです。</p> <p>陸運局は市の地域公共交通会議で決まったことを尊重すると意見しています。民間のバス会社とタクシー会社との折り合いだ。市としてもコミュニティーバスや、デマンド交通に資金を入れてやっているが、その地域から出ないようにしてもらいたいということが現実で、そこまでの理想的な話には至っていない。</p>

委員	<p>子供の人数も自分たちの子どもたちと比べて 1/3 ぐらいに減っている。これを何とかしなければならぬと思っているが皆さんのご協力がなければならぬと思う。</p>
委員長	<p>たつのが元気になるかならないかは、若者にかかっている。</p>
委員	<p>たつの市は子どもが生まれたときは支援があり、その先にある食の安全について思っていることは、食の安全、農作物のブランド力アップである。何かの農作物の1品目をブランド化させるということではなく、たつの市産の農作物が全て安全であるということ、ブランドとすることを考えてはどうか。一次産業をブランド力アップすれば、それを加工した2次産業もブランドになり、たつの市の農作物がブランドになる。たつの市に行けば、たつの市で食べる食物を全て安全だということで、子育て世代の一定層に刺さると思う。たつの市で子育てすれば、自然も豊かだし食物は安全だということで、子どもたちには安全安心なものを食べさせたい。農薬が子供の発育にある程度影響するという根拠も出てきている。農作物の有機栽培にシフトしていくことで、たつの市のブランド力アップにつながると思った。これは都会では絶対出来ない事である。</p> <p>有機栽培を行うには広い土地が必要だし、豊かな自然があつてこそできることだと思う。都会の人はお金を出してでも有機栽培で安全安心な作物を買っている。そういう専門店が経営できていることで裏付けられている。</p>
委員	<p>たつの市をどう売り込んでいくのか、情報発信していくのが最大のポイントだと思う。食べ物の安全、子育て支援、パートナーシップ制度を早々に作っておられ、いわゆる SDG s どころではない取組もしているが、たつの市以外の方がどれだけご存じなのかと思う。たつのを離れて、市外へ出られた方は、たつのに引っかけをお持ちである。その人たちがたつのを常に知り続ける。それも、たつのがこんなにも良くなっている。自分たちがいたときに比べると交通も、いろんなことがプラスになっているということアピールし続けていくことが非常に大事かと思う。</p> <p>例えば尼崎市は公害があつたりして工業のまちでしたが、工場跡地の再開発が進み、住宅が増えて大阪に非常に近いという地理的条件のこともありますけど、今は住みたいまちの上位にランキングされている。20年前ではあり得なかったことだと思う。尼崎市のPR戦略がうまいと思う。</p> <p>たつの市の場合、非常に良いイメージがたくさんある。町並みの良さ・三木露風や非常に歴史文化も深い。醤油・素麺といった伝統産業もある一方で、まちづくりに力の強い企業もある。それをトータルに考えたらものすごく良いまちだ。播州全域がものづくりの町であるということもあるのかもしれないけれども、男社会のイメージが強いが、女性が働きやすいとか、パートナーシップ宣言制度や、子育てしやすいまちであることをPRするべきである。</p> <p>自然もたっぷりあるし、交通アクセスも良い、今は在宅ワークできるといったいろんな話ができる。本当に良いところであるために、これだという施策を作っているので、それらをもっとアピールしていく必要がある。</p>
委員長	<p>これらは、ブランドであるということだ。ブランドが周知できていない。ブランド戦略をみんなで考える必要がある。最後に、たつの市だけに強力なバックアップをせよとは、言わないが、たつの市に力強い声援を送ってください。</p>
委員	<p>コロナの状況によって、人の移動が都市部から田園部へ流れるかと思っていた</p>

	<p>が、思ったより社会現象として起こらずに、収束に向かっている状況である。人口減をどのように歯止めをかけていくかという、交流人口の増加というような観光政策、実際に人に住んでもらうためのきめ細かい施策を引き続き行うということは改めて思うところである。</p> <p>例えば、地球温暖化の話にしても、その防止策として、CO2 を減らそうとか、ゼロカーボンをやろうという防止策と、その一方で、実はあまり日の目を見ないが、適応策、実際にこれ以上温度が上がっていったら、水面が上昇し、海水面が上昇する。それをどうするのか、或いは動植物の生態系が変わったときに、どんなふうに対応するのか、そういったセーフティネット的な施策も、非常に重要な分野になってくる。</p> <p>人口減少についてもまさにそういうことで、一方では人を増やそう頑張ろうという施策は、非常に前向きでポジティブな施策をどんどんやっていこうっていう、そういう分野も大切だが、実際にこれだけ減ってきて今後もどんどん人が減っていく上で、この地域をどうしていくか、どんな課題が今後出ていくかということも、やはりどういうステージかは、きっちり理解して、その対応も考えていく。コミュニティが今後どういうふう維持していかなければいけないのか、或いはライフラインを初めとしたインフラ、更新の時期に来たときに、どうしていかなくては行けないか、といったことだ。</p> <p>公共交通機関のあり方も今後ますます本当に大きな陰の部分と陽の部分の役割分担を本当に真剣に議論していかなければ、人々の日常生活がなかなかできなくなっていく。特にお年寄りを中心とした、本当に影の部分というか、そういう課題がどんどん出てくる。でもそれを議論することが、何かタブーみたいなことにはなっていないと思う。</p> <p>空き家対策とかいろんなことも、たつの市もすでに取り組んでいることにも、十分気を配りながら、両面作戦じゃないが、この市がより良い、そういうことをやっていけば、注目度を受けて、「あそこはそこまで考えている場所なのだな、いいところだな、浮ついているだけじゃない、住んでいる住民の皆さんのことを良く考えているね」といったことも、結果的には、売り込んでいく大きな材料になるのかと思う。地味な分野だがそういうことも大切かと思う。</p> <p>いずれにしても今年7月から9月にJRのデスティネーションキャンペーンがあり、2025年の大阪関西万博も2年少し先に見えてきたので、そういう機会を捉えて、まずはこのたつのにどんどん人に来てもらって、それで良いまちだなんていうことを体験してもらい、そして住んでみようか、或いは実際にここで生まれ育った人が戻ろうかなというきっかけになるように、県民局としてもたつの市と一緒に頑張っていきたいと思うし、本当に何かいろいろな課題があれば、県でできることはどんどんやっていきたいと思う。</p>
委員長	<p>今後はこの委員会に女性が入ってくればよいと思う。他の会議でも同じだと思います。</p>